

2023年度「専門特殊研究」研究会一覧

文 学 学 術 院

2023年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容はWebシラバスには掲載されていないので、ご承知おきください。

【専門特殊研究について】

高度な原典購読や資料解読、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

<履修について>

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会（4単位）までの単位認定が可能です。
- 入学後2学期目から卒業見込み学期の前学期まで履修することができます。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

<成績について>

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を収めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究（主題・担当教員名） 配当年度 配当学期」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

（以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順）

春学期

火

4時限

実施曜日・時限
の特記事項

参加可能年次
2年以上

主題
アラビア語原典講読

担当教員
岡 真理

研究概要

アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の結構やナラティブ、語彙の選択等、作品の「表現」のあり方にも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、文学的な日本語訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、中東の現代世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

講読するテキストは、参加者の関心や希望、レベル等を踏まえて選びたいと思います。さしあたって、Ghassan Kanafan の短編作品などを考えています。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で日本語に翻訳します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。第1回目の授業時に研究室にお越しください。

備考

アラビア語初級の単位を取得していること(もしくは、基礎文法の基本的事柄を習得していること)。

春学期**木****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

和歌テキスト原典講読(新古今研究会)1

担当教員

兼築 信行

研究概要

和歌に関わるテキストを輪読形式で読解する。何を取り扱うかは、参加者で相談のうえ決定するが、2022年度は定家隆西卿撰歌合、宮河歌合を輪読した。撰集、家集、定数歌、歌合、歌学書など、対象は和歌に関係のあるテキストであれば、とくに限定しないが、中古～中世(平安～室町時代)のテキストから選びたい。和歌を読解するために必要なスキル、データベースの使い方など、初歩から手ほどきをするので、まったくの初学者でも心配はいらない。最終的には、和歌に関するテキストを注釈できるレベルに到達することを目指す。また、個々の作品の読解のみに終始するのではなく、和歌についての議論や、前近代の和歌の作り方に擬えて、実際に短歌を創作・発表する活動も、余裕があれば行いたい。

使用文献

テキストはすべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

毎週、輪読を行う。成績評価を受けるためには、1回以上の発表を必須とする。なお質疑や意見表明など、議論への参加状況も加味する。

受講者選考方法

担当教員宛メールで申し込むこと(knck@waseda.jp)。申し込みの際には、和歌についてどのような関心があるのかを、端的に記して欲しい。原則として受講を拒絶することはない。

備考

大学院生や、他学部、他大学の学生も参加するので、承知されたい。なお開始、終了時刻は、参加者と相談のうえ、調整することもあり得る。

春学期**金****2時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

フランス現代哲学(原典)講読

担当教員

西山 達也

研究概要

20世紀フランスを代表する哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)のテキストをフランス語原典で講読する。レヴィナスはエトムント・フッサールによって創始された現象学がフランスに導入される際にきわめて重要な役割を果たした哲学者であるが、初期の思想から『全体性と無限』(1961年)に至るまでの思想変遷はこれまで十分に解明されてこなかった。近年、1940-50年代の草稿群が刊行されるなどして、レヴィナス哲学の新たな姿が明らかになりつつある。本研究では、レヴィナスが第二次世界大戦後に自らの哲学的マニフェストとして刊行した著作である『実存から実存者へ』を熟読することで、この哲学者の思考に入門するとともに、フランス語で哲学することの愉しみを共有したい。

使用文献

De l'existence à l'existant [1947], Vrin, Edition de poche, 2013

活動記録の内容、提出方法

参加者各自が作成した翻訳を持ち寄り、比較、検討、解釈する。授業への積極的な参加が単位習得の条件となる。

受講者選考方法

受講希望者は2023年4月12日(水)までに参加を希望するというメールを以下のアドレス宛に送付すること。メールアドレス:t-nishiyama@waseda.jp

備考

春学期**無****その他****実施曜日・時限** 受講者と相談して決める
の特記事項**参加可能年次**

2年以上

主題

中国近現代文化の諸問題

担当教員

千野 拓政

研究概要

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所の確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらう研究活動報告によって評価する。

受講者選考方法

第1回めの授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーターかに伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

春学期～秋学期**火****6時限****実施曜日・時限** ※備考欄参照
の特記事項**参加可能年次**

2年以上

主題

満洲語文献講読

担当教員

柳澤 明

研究概要

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。テキストとして、本来は八旗制度に関する重要史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を使用する予定であったが、事情によりテキストの入手が難しいため、当面は「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」を講読する。

使用文献

「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。14回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、4月18日(火)までに柳澤にメール(akiray@waseda.jp)で申し出てください。面談(状況によりオンラインで実施)の上、受講者を選考します。

備考

原則として隔週開講とし、春学期～秋学期を通して計14回行います。火曜6限に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。なお、満洲語初心者は、最初の数回で満洲語の文字・文法等の基礎を学びます。

秋学期**月****4時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

中世アラビア語原典史料講読

担当教員

五十嵐 大介

研究概要

本授業は、中世のアラビア語の原典史料(年代記、人名録、地誌、寄進文書など)の講読を通じて、マムルーク朝時代(1250-1517年)の中東・アラブ地域の歴史研究の作法を学ぶものである。史料の読み解き方を習得するとともに、それがマムルーク朝史の既存の研究成果とどのようにかかわっているのか学んでいく。単なるアラビア語の授業ではなく、この時代の原典史料に特有な性格(記述のスタイルや含まれる内容)を把握し、歴史研究のための史料として読み解いていくことを目的とする。受講生には中級以上(初級文法を一通り習得し、辞書を引ながら文章が読めるレベル)のアラビア語の知識に加え、イスラームや中世アラブ史、マムルーク朝史についての知識と、それを深めていこうという熱意が求められる。

使用文献

イブン・タグリービルディー『澄んだ泉al-Manhal al-safi』『輝く星Nujum al-zahira』、マクリーズィー『エジプト地誌Khitat』など

活動記録の内容、提出方法

平常点により評価する。

受講者選考方法

受講を希望する場合は初回の授業に必ず出席してください。アラビア語の学習状況や中世アラブ史についての知識や取り組みについて問う面談を経て、受講の可否を決定します。【初回授業】2023年10月9日(月)4時限目、39号館3階2321中東・イスラーム研究コース室

備考

秋学期**火****4時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

アラビア語原典講読

担当教員

岡 真理

研究概要

春学期に引き続き、アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の構構やナラティブ、語彙の選択等、作品の「表現」のありようにも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、文学的な日本語訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、中東の現代世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

講読するテキストは、参加者の関心や希望、レベル等を踏まえて選びたいと思います。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で日本語に翻訳します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。第1回目の授業時に研究室にお越しください。

備考

アラビア語初級の単位を取得していること(もしくは、基礎文法の基本的事柄を習得していること)。

秋学期**木****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

1年以上

主題

和歌テキスト原典講読(新古今研究会)2

担当教員

兼築 信行

研究概要

和歌に関わるテキストを輪読形式で読解する。何を取り扱うかは、参加者で相談のうえ決定するが、2022年度は定家隆西卿撰歌合、宮河歌合を輪読した。撰集、家集、定数歌、歌合、歌学書など、対象は和歌に関係のあるテキストであれば、とくに限定しないが、中古～中世(平安～室町時代)のテキストから選びたい。和歌を読解するために必要なスキル、データベースの使い方など、初歩から手ほどきをするので、まったくの初学者でも心配はいらない。最終的には、和歌に関するテキストを注釈できるレベルに到達することを目指す。また、個々の作品の読解のみに終始するのではなく、和歌についての議論や、前近代の和歌の作り方に擬えて、実際に短歌を創作・発表する活動も、余裕があれば行いたい。

使用文献

テキストはすべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

毎週、輪読を行う。成績評価を受けるためには、1回以上の発表を必須とする。なお質疑や意見表明など、議論への参加状況も加味する。

受講者選考方法

担当教員宛メールで申し込むこと(knck@waseda.jp)。申し込みの際には、和歌についてどのような関心があるのかを、端的に記して欲しい。原則として受講を拒絶することはない。

備考

大学院生や、他学部、他大学の学生も参加するので、承知されたい。なお開始、終了時刻は、参加者と相談のうえ、調整することもあり得る。

秋学期**金****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

ドイツ近代哲学(原典)講読

担当教員

御子柴 善之

研究概要

この専門特殊研究では、ドイツ近代哲学から、イマヌエル・カント(1724-1804)の名著『純粋理性批判』をとり上げ、ドイツ語原典で検討します。この著作は大部のものですから、私たちの検討できる範囲はきわめて限定的なものでしかありません。そこで、今回は、第二版の緒論を検討対象にしましょう。この箇所は、初版が思うように理解されなかったことを踏まえて、カントが自分の立場をいねいに論じ直した箇所です。その点で、『純粋理性批判』の中ではもっとも理解しやすい箇所です。この箇所をドイツ語原典で検討することで、カントの所説を理解するのみならず、哲学書を原語で読むことの意義を確認しましょう。なお、受講に際して、ドイツ語の読解能力が十分にあることは前提されません。授業中には、文法事項をさまざま解説しますので、ともに学んでいきましょう。

使用文献

Kant, Kritik der reinen Vernunft. なお、使用する箇所は、担当教員がコピーを作成して配布します。

活動記録の内容、提出方法

『純粋理性批判』をドイツ語原典でゆっくり読み進めます。その都度、自由な議論も行います。評価は、出席状況に基づく平常点です。

受講者選考方法

特に、ありません。

備考

参加を希望する方は、担当教員にまでEメール(mikoyuki@waseda.jp)でご連絡ください。参加人数を確認して、どの会場を使用するかを判断します。

秋学期

無

その他

実施曜日・時限 受講者と相談して決める
の特記事項参加可能年次
2年以上主題
中国近現代文化の諸問題担当教員
千野 拓政

研究概要

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所の確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらう研究活動報告によって評価する。

受講者選考方法

第1回めの授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーターに伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

秋学期～春学期

火

6時限

実施曜日・時限 ※備考欄参照
の特記事項参加可能年次
2年以上主題
満洲語文献講読担当教員
柳澤 明

研究概要

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。テキストとして、八旗制度に関する重要史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を使用する予定であるが、テキストの入手可否等の状況によっては、春学期に引き続き「清代欽差駐庫倫辦事大臣衙門檔案檔冊彙編」を講読する可能性もある。

使用文献

「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。14回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、10月10日(火)までに柳澤にメール(akiray@waseda.jp)で申し出てください。面談(状況によりオンラインで実施)の上、受講者を選考します。

備考

原則として隔週開講とし、秋学期～2024年春学期を通して計14回行います。火曜6限に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。なお、満洲語初心者には、最初の数回で満洲語の文字・文法等の基礎を学びます。

以 上